

第16号

発行責任者
埼玉県西部支部
支部長 岡部奈緒美

発行日
令和4年2月1日

事務局
〒350-0451
入間郡毛呂山町毛呂
本郷227

東洋大学校友会 埼玉県西部支部だより



2017年12月2日 川越キャンパス

支部長あいさつ

埼玉県西部支部支部長 岡部 奈緒美
(昭57年卒・経済)



埼玉県西部支部の皆さまにおかれましては、ますますご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、日頃より校友会ならびに支部活動に對しまして、多大なるご支援とご協力を賜りますことに心から感謝を申し上げます。

大相撲初場所において三度目の優勝を果たした相撲部OBの御嶽海関が大関に昇進しました。東洋大学出身初の大関の誕生であります。心からお祝いを申し上げますとともに今後の活躍を期待します。また、ラグビー部も29年ぶりに1部リーグに復帰し、アイスホッケー部は2年ぶりに開催されたインカレで連覇を達成しました。

第98回東京箱根間往復大学駅伝競走では、往路9位・復路2位・総合4位でゴールしました。9区の前田選手と10区の清野選手の快走で3位駒沢大学とは2秒差でした。校友の皆様には集まったのテレビ観戦や沿道での応援自粛をお願い致しましたところ、埼玉県西部支部の皆様におかれましてはご理解をいただきましてご協力を賜りましたことに厚くお礼を申し上げます。

昨年度に続けて今年度も新型コロナウイルス感染拡大によって校友会活動も大きく制限され、今年度については恒例のバスツアーも延期になってしまいましたが、新型コロナウイルス感染拡大が落ち着きましたら、また楽しい企画を皆様にご案内したいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



令和三年度

埼玉県西部支部

総会報告

令和三年度も新型コロナウイルスのデルタ株などの影響によりさらに感染が拡大し、国内外で感染者が増加しました。そのため、東京オリンピック・パラリンピックも無観客で開催される事態となりました。

しかし、ワクチン接種等の感染拡大防止に向けた対策により感染者数が減少し、十月以降は規制が緩和されてきました。ところが、年末からオミクロン株の影響により再び感染拡大が心配されるようになっております。以下、本年度の総会について概要を報告します。

《昨年度における準備》

埼玉県西部支部では昨年度の十二月の役員会において、令和三年度の定期総会を令和三年七月三日（土）、午後一時から東洋大学川越キャンパスで開催することを決定し、準備を始めました。そして、令和三年度の活動計画と総会の準備等を具体化するため役員会を二月に計画しました。しかし、緊急事態宣言発令のため三月に延期をしましたが、宣言が延長されたため四月に再延期することになりました。

《令和三年度まん延防止等重点措置発令下の準備》

本年度になり四月十一日に開催された役員会において、事業計画や予算等が検討され、総会実施に向けて、「①コロナ禍もとの準備に当たっては、「命を守る」という神田会長の方針を踏まえ、新型コロナウイルス感染拡大防止に留意する。②総会は支部の会員が直接顔を合わせる貴重な機会であり可能であるなら開催の方向で準備を進める。」という方針を確認し、昨年度にならって開催することとしました。

以上を踏まえ準備を始めましたが、四月中旬から感染者が増加し三回目の「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」が東京都等に発出され、埼玉県などには「まん延防止等重点措置」（「まん防」）が発令される事態となりました。様々な制限が加えられた中で、校友会本部や他支部の動向などを踏まえながら準備を進めました。

《支部会員への案内》

会員に対しては前述したことに留意し、案内文には昨年同様に①新型コロナウイルスの感染状況によって中止する可能性がある、②講演会と懇親会は中止するという二点を記しました。このことを理解していただいたうえで参加不参加の返信を頂くように案内文を送付しました。な

お、参加の返信期限は六月十五日までとしました。

《書面議決による定期総会の開催と結果》

六月に入り「まん防」による制限も緩和され、役員会が開催されました。そこで、定期総会の実施について、当時の現状を踏まえて検討したところ、①感染者数が減少してきているものの安心できる状況にないこと、②総会の会場である川越キャンパスは使用が認められない（学生も入構を認められない）こと、③校友会本部は書面やメールによる会議となつているとともに、多くの他支部も書面議決を採用していることから、当支部では令和三年度の定期総会も昨年同様に書面議決で行うこととしました。そして、総会に「参加」と

返信された方へ「令和三年度定期総会議案書」（議案書とともに総会が書面議決となった経緯と意見を記入していただく欄を付した用紙を添付）を送付し、意見を求めることとしました。意見等は七月三日（土）までに返信していただくよう依頼しました。

また、総会当日は念のため事務局長が予定された受付時刻に会場（川越キャンパス四号館）に待機しました。幸い開会時刻に参集された会員

はなく、その旨を支部長に電話で報告しました。

総会の結果ですが期限までに反対等の意見は無く、全議案は承認されました。なお、結果は緊急事態宣言中であつたため役員に書面で報告しました。また、七月十八日に行われた支部Zoom会議（暑気払いを兼ねる）においても重ねて報告し、議案書に示した議案は全て承認されたことを確認しました。

《予定された本年度の総会の概要》

本年度の総会は次のような「次第」を計画しました。昨年度と同様に来賓挨拶と来賓紹介をなくしました。これは、今年も「コロナ禍」のもと多くの他支部が安全を優先し、周辺支部への総会への「出席のお願い」の案内を中止したことにより、西部支部としても、他支部に総会への出席を依頼せず、西部支部から他支部総会に出席しないこととしました。また、今年度も「講演会」と「懇親会」を中止しました。

【予定した次第】

- 一 開会の辞
- 二
- 三 大学歌斉唱
- 四 支部長挨拶
支部長 岡部 奈緒美
- 五 議長選出



六 議事

第一号議案

令和二年度会務報告

事務局長 中島 明男

第二号議案

令和二年度収支決算報告

会計 村野 公平

第三号議案

令和二年度監査報告

監事 小野澤康弘

第四号議案

令和三年度事業計画(案)

支部長 岡部奈緒美

第五号議案

令和三年度予算(案)

会計 村野 公平

その他

七閉会の辞

【各議案の概要】

第一号議案 令和二年度事業報告

～主な活動を抜粋して紹介～

*総会

令和二年七月四日(土)

十三時から東洋大学川越キャンパスを会場に行う旨、案内

※感染防止のため書面議決

(参加申込み者二十七名)

*レディース部主催バスツアー

令和二年十一月二十八日(土)

目的地 渋沢栄一記念館他

(十二名参加)

※例年の日程を変更し、西地区主催「秋の散策」と合同して実施

*役員会：原則として偶数月開催(六回実施)

*埼玉県西部支だより十五号発行

令和三年二月一日 千部

*周辺支部総会への参加

《本年度も招待・参加なし》

*埼玉白山教育会への支援と総会(令和二年十二月五日)への出席

オンラインで開催・支部長参加

*支部長が理事会・全国支部長会・全国女性連絡会議総会等にオンライン等で参加

*陸上競技部や硬式野球部へ支援

第二号議案 収支決算書(表1参照)

第三号議案 令和二年度監査報告

令和三年五月十四日、

監事(矢部 操・小野澤康弘)により監査した結果、適正に執行されていることが認められました。

第四号議案 令和三年度事業計画

～主な計画(抜粋)～

本年度も埼玉県西部支部規約に定める目的達成のため次の事業を進めます。

一 支部組織の充実と地域活動の活性化

二 会員相互の連絡と親睦

三 広報活動 会報一六号の発行

四 母校行事への協力及び学生活動の支援

五 近隣支部との連携

六 雨水会との連携

なお、本年度も新型コロナウイルス感染拡大により、計画が変更になる可能性があります。

第五号議案 収支予算書(表2参照)

《令和三年度の活動》

本年度も「コロナ」とともに活動がスタートしました。感染拡大に伴う様々な困難がある中、支部会員の知恵と協力により活動を進めています。主なものを二つ紹介しましょう。

一つは昨年同様、例年六月実施の「バスツアー」と秋に行っている「散策」とを合同で実施予定(二月二十六日・酒蔵巡りと越生梅林他)です。両事業の趣旨を生かした企画です。

二つ目は、本部の支援や他支部の協力を得ながらzoomの研修を兼ねた会議を奇数月に実施し、自宅に居ながら支部

の連絡・確認と懇親を深めています。

三つ目、母校支援として、陸上競技部と硬式野球部への米の支援と大学への寄付を支部として行いました。

コロナ禍のため各事業への参加が難しくなっています。一日も早くコロナが収束し、皆様笑顔で参加できる日を心待ちにしております。

併せて、会費の納入を含め皆様の

ご協力をお願いします。

表1 収支決算書

Table 1: Income and Expenditure Statement for the 2nd year of Reiwa. It includes a detailed breakdown of income and expenses across various categories, with a total balance of 202,412 yen.

表2 収支予算書

Table 2: Income and Expenditure Budget for the 3rd year of Reiwa. It provides a forecast of income and expenses, with a total budget of 202,412 yen.



令和三年度代議員会の報告

事務局長 中島 明 男

本年度はコロナ禍の下、会員の命を守ることを最優先にするという方針により書面決議で開催（五月二十二日）されました。私たち代議員は郵送された議案書、Zoomによる説明会、HP掲載の質疑応答を参考に議決権行使書（賛否記入）を



提出しました。結果は全ての議案が大多数の賛成で可決されました。

しかし、理事会において今回の代議員会は法的な成立要件を満たしていないという意見が出され協議を重ねました。その結果、法人化最初の代議員会ということもあり慎重を期して再度開催することとなりました。

再度の代議員会は十二月四日午前十時から雨水会館にて行われました。参加は書面が百二十三名、Zoomが十九名、直接が執行部等四名の三形態でした。埼玉県西部支部からは十名が書面、支部長が司会のため直接、私はZoomで参加しました。

開会后、会長挨拶に続き議長が選出され議事に進み、質疑応答では様々な意見が出されました。中には支部会議や理事会等で解決すべき発言もありましたが、正副会長が丁寧に回答されたのが印象に残りました。採決の結果は全議案が大多数の賛成で可決され閉会となりました。

今後も神田会長を先頭に「建設的で前向きな文化」を活動の中で醸成し、課題解決と活動の充実に努力したいと考えます。

諦めない気持ち

小林 一成（平3年卒・経法）



私の大学生活はバスケットボールと共に歩んだ4年間で、その経験は今でも大きな糧となっております。当初は大学のレベルに追従するのに必死だったことや、初めての寮生活、体育会特有の上下関係など大変だった記憶が思い出されます。ただ、それらを通し『諦めない気持ち』を学び、そこで出会えた素晴らしい『仲間』との関係は今でも続く私の大切な存在です。

中国遠征で得た経験も素晴らしいものでした。元中国代表選手からの指導や、上海で開催された上海大学との試合。特にこの試合では、チケット制にも関わらず沢山の方に観戦頂き、その熱気を強く感じ非常に感動致しました。

大学卒業後は、恩師の三浦先生の紹介で、(株)松永建設に入社しました。その後、3代目として(有)小林誠文堂を継いでいます。学校や役所が主なお客様です。先が見えない時代ですが、大学で得た『諦めない気持ち』で社員一同と未来に向かって挑戦して行きたいと思えます。

現在の楽しみは、近年の大活躍で東洋大の名を広めてくれた、箱根駅伝の応援です。バスケットもリーグに選手を送るなど力をつけており今後が非常に楽しみです。

最後に、坂戸市出身の東洋大学バスケット2年後輩で、会社の社員であった関野克啓くんが昨年6月に亡くなりました。ご冥福をお祈りします。



校歌と学生歌と日本拳法修行

長澤 政 行(昭和45年・法学)



遙か50年以上前のことになるが私が入学した頃は旧白山通りに都電が走っており80周年記念館の前には「東洋大学前」なる停留所があった。中央校舎の正面には四聖の像が掲げられていた。そんな時縁あって日本拳法部に入部した。毎日3時間近い厳しい稽古の日々であった。当時毎週土曜日は稽古前に上野公園までラニングするのが日課となっていた。先輩方はゴム草履を履いていたが1年生は坊主頭に裸足で、その上公園に着くと全員博物館前の大噴水のある池の端に立ち気合の稽古と称して校歌を大声で歌わされたのである。たまたま居合わせた人々には喝采を浴びたが1年生にとっては誠に迷惑な話であった。また電車内、各合宿地など折にふれていたるところで歌

わされたものである。

ところで母校の校歌が何時どのようなに制定されたか知る人は意外と少ないと思われる。東洋大学は明治20年9月、学祖井上円了によって哲学館として創設され宗教界、教育界に多数の人材を輩出した。世に三田の理財、早稲田の政治、白山の哲学とうたわれている。大正10年には校歌制定の要望が高まってきた。大正11年東洋大学同窓会は大学校歌懸賞募集として4つの規定「本学の学風を象徴、宣揚するもの」、「本学学生に永久に印象せしめ朗詠させるもの」、「校歌の審査は選者に一任すること」、「当選歌なるも適宜修正あること」を定め学生、校友に呼びかけた。応募作の中から卒業生の歌人林古溪(竹次郎・林羅山の末裔)の作が選ばれた。「あした浜辺をさまよえば」で知られる浜辺の歌の作者として知られている。作曲は山田耕作である。選者によって何力所か修正され大正13年に制定された。今も歌詞は変えられることなく校友に歌い継がれているのは、学祖井上円了先生の「諸学の基礎は哲学に有り」と

いう洋の東西を問わぬ哲理の源泉が脈々と続く教えと日本の文化的価値を世界に示す気宇壮大な東洋大学の自負と気概によるものと確信している。ところで作詞者は不詳だが校歌に先立つて大正12年の大学騒動で学友同志を鼓舞するために学生歌として「若葉の杜」が創作されている。今は応援歌として愛されている。歌詞は悲壮と勇壮さが込められスケールの大きい東洋大学に相応しい詩である。他に東洋大学には応援歌、逍遙歌、感想の華など多くの素晴らしい曲詩が有るので多くの校友に校歌とともに歌い継がれていってもらいたいものである。

逍遙歌

一 鶏声台上秋蘭けて
観想の華玲瓏と
ゆくてに白き富士が嶺の
ああ黎明の色に映ゆ
青雲の意気やみ難く
ここに集える聖学徒

二 血涙ともに滲みたる
伝統の旗奪うとき
ゆくてに青きみんなみの
ああ八紘に光あり
愛理の叡智うつぼつと
ここに学ばん聖学徒

三 見よ日輪に輝ける
聖き旗これ国風の
久遠の姿きわむべき
ああ東洋の曙光なる
護国の誠火と燃えて
ここに叫ばん聖学徒

観想の華

一 感想の華 みだれ咲く
帝都の北や白山の
鶏声台にそそり立つ
ああ東洋の聖学府

二 護国愛理の金字塔
不滅の城の王者なる
時黎明の鐘鳴れば
集まる学徒七千余



リーグ戦優勝祝賀会 幹部記念写真
2部完全優勝 一部昇格 本学道場



「消防団長」として活躍中

麻原 真一（平7年卒・商学）



東洋大学経営学部商学科を平成7年3月に卒業しました麻原真一と申します。

現在地元の埼玉県入間郡毛呂山町で自営業の傍ら消防団の団長を努めております。

消防団は火災があれば消火活動、水害があれば水防活動を行うなど地域の防災の一端を担っております。ご存知の方も多いと思いますが皆様の方にも必ずいる身近な存在です。消防団が活躍することが無いのが一番良いのですが、有事の際は地元住民の皆様の助けになれるよう日頃より本業の仕事とは別に訓練に励んでおります。

さて私が東洋大学に通っていたのはもうだいぶ昔ですが当時は一、二

年生時が朝霞キャンパス、三、四年生時が白山キャンパスでした。家が埼玉ですので通学には便利だったと思いますが、朝霞キャンパスの時は畑の中の校舎ですから思い描いていた大学生活とはちよつと違い学校の雰囲気は高校の延長みたいな感じでした。

3年生になり「いよいよ東京のキャンパスだ」と思ってた白山の校舎でした。なんと改装工事中、しかもそれが在学中ずっと続き新校舎を全く見ることなく卒業致しました。

いつも学校へ行っても校門をくぐることなく狭い裏口のような入口から工事中で目隠しだらけの壁を通り抜けてエレベーターで各階へ、そしてどここの階も工事中でやはり狭い通路を通り教室へ、そんな学校生活を2年間過ごしました。だから白山キャンパスといえば記憶に残っているのは工事現場？のような光景ばかりです。

学生のキャンパスと言えれば思いつくかぶのおしゃれなカフェテリアとも呼ぶべき食堂ですがもちろんここも改装中で学内で食事をしたことも



ありません。いつも校舎近くのファミレスで友人たちと安い定食を食べながら時間を潰していました。まあそれもいい思い出ですが、結局きれいになった母校を見ることなくないだかんだでこの年になってしまいました。チャンスがあれば1度見学に行きたいですね。多少の貢献はしているわけですね。

ここ数年のコロナ禍により世の中の生活は劇的に変わりました。東洋大学の在学生たちも思うように学校へ行けず授業や部活動も出来ず、友人たちにも会えず不安な時期を過ご

されたかと思えます。今の学生たちの困難さに比べたら、「学校が改装工事中だった」などという私の不満は本当に大したことではありません。世の中や学生たちの生活が早く通常に戻り、活気あるキャンパスに戻ることを願っております。

最後になりますが東洋大学の学生並びに校友会の皆様のご健康とそれぞれのご発展を心よりお祈り申し上げます。

令和3年度レディス部

西地区共催視察研修

延期のお知らせ

令和3年度に企画しておりました視察研修「酒蔵&校友めぐりツアー」は、新型コロナウイルス感染症拡大により、開催を延期させていただきますことになりました。

この度の視察研修は、埼玉県小川町・松岡酒造「帝松」↓越生町・佐藤酒造「越生梅林」↓そば処「よしひろ」を予定しておりました。

なお、すべて校友の経営するお店であります。開催日が決定しましたらご案内致しますので、参加を希望される方はご連絡ください。（西地区長 岡部和雄 昭57卒経済）

「商工会」会長に就任

岡部 和雄 (昭57年・経済)



まさに青天の霹靂とも思える「新型コロナウイルス感染拡大」により、世の中がひっくり返るほどの大混乱の日々が続きます。誰もがものの方、考え方が大きく様変わりしたと思える毎日です。

そんな中、ここ数年オリンピックなど様々な場面で東洋大学の後輩たちが活躍する報道を見ると、暗いニュースの中で一筋の光明を見るようであります。

私の住んでいる埼玉県毛呂山町は、西に山を見る人口三万三千人の小さな町であります。埼玉医科大学、社会福祉法人埼玉福祉会丸木記念福祉メデイカルセンター、社会福祉法人育心会がある医療と福祉の町であり、若い人を含めた流動人口が多い

町であります。

また、私の自宅は東洋大学川越キャンパスから近い距離にあるため、硬式野球部、陸上競技部をはじめ、アスリート東洋の技を目の当たりにすることができると同時に伝統ある工学部のおかげで近代建築の最先端の建物を見上げることができ、母校の発展にただ驚くばかりであります。

私の家は、大正初期から続く「米屋」であり、この町の中心に位置しています。ご存じの方もいると思いますが、商売を営んでいると自ずと地元の「商工会」に入会するのが通常の流れであります。御多分に漏れず私も二十代で商工会青年部に入会し、当時の多業種の先輩たちに酒・ゴルフ・夜遊びと温かい？ご指導をいただきました。

日々が経ち、父の後を継いで家業の代表者となり、商工会の理事役員として過ごしてまいりました。青年部長時代には、全国でも注目をされた「アポありサクタ」事業を立ち上げました。内容は「アポあり」つまり、事前に本人にしかわかな

い「クリスマスプレゼント」を保護者に用意してもらい、クリスマス・イヴの当日にサンタとトナカイに扮した私たちがクリスマスソングをバックに子どもたちの名前を呼び、プレゼントを渡すという流れです。子どもたちの驚きと喜びの表情は、今でも忘れることができないほどに青年部冥利につきました。

そんな活動を続けるうちに、どつぷりと商工会の役員に両足がつかつてしまいました。

その間、町の議会議員を七期つとめることができ、六年前に議員を引退しました。

その後、やっと自分の商売だけに専念しようと思った矢先に、前任の商工会長の逝去に伴い、令和三年五月二十四日第六十一回総代会において会長に推挙され就任することになりました。

会長就任と同時に「新型コロナウイルス」の対応に明け暮れることになりました。「新型コロナウイルス」の悪影響の一番のターゲットは、私

ども商工業者でありました。国の給付金、支援金の申請など、毛呂山町商工会は通常、事務局長をはじめ六名の職員での業務でありましたが、これを境に日々激務が続いております。また、通常「会長」は無給の名誉職？と聞いておりましたが、ほぼ毎日商工会館に通い決済の業務にあけ暮れる日々が続きます。

ここ数年、商工業者は消費税の増税、また少子高齢化による社会状況の変化により厳しい経営状況が続いていました。

さらに追い打ちをかける「新型コロナウイルス」の感染拡大であります。商工会の本業の業務は、中小・小規模企業の経営支援、資金融資、労働保険、税制対策等、すべての事業が「会員」のための組織であります。また、地域の商工業のリーダーとして、会員事業の継続発展のために、さらに町の発展にも寄与しなくてはなりません。

商工会長として、これからは「町議会議員」としてではなく、違った立場で活動しなくてはなりません。歴代の大物会長!!また重層な理事役員の方々から「岡部、あとは任せただぞ」と、後ろからの「ゲキ」が聞こえます。

自分の商売はさておき、会員のことを考える苦悩の日々が続きます。



